



斑雪寒

宮坂静生



隠国のつばめ截る空父母のため  
鯨の目よりも小さき母の窓  
銭湯に湯当りの父さくらの夜  
亡き子らの巫山戯合ふこゑ蒲団部屋  
花冷の大戸の敷居祖母が臥し  
おぼろ夜やくくと大戸の鬨鳴き



足萎えの妹をおんぶし雲雀野へ  
浜木綿に寒の水さす本の中  
斑雪寒この山襷がわが涅槃  
夢夜ごと身が空蟬に冴返る  
雨氷の日俘虜石涛子長逝す  
死者の書に死者愉まず谷隴  
若年の子規の跳ね字やさくら葉へ  
春どつと子規の頓首の字の踊る

悼 百瀬石涛子(九十八歳)

二上山